男女共同参画の推進について

【調査の目的】

福岡県では、県民の皆さまが、住み慣れたところで「働く」、長く健康で元気に「暮らす」、子どもを安心して産み「育てる」ことができる地域社会づくりを進めています。そのためには、ジェンダー平等・男女共同参画の実現が不可欠です。

ジェンダー平等・男女共同参画を推進することは、男性の働きやすさ、暮らしやすさにもつながるものであることから、幅広い分野で女性がさらに活躍できるよう、働く場における女性の活躍と家庭・地域における男女共同参画をともに進め、実効性ある施策・取り組みを推進する必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、女性の貧困やＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力など、平時におけるジェンダー平等・男女共同参画の遅れが顕在化しました。

このため、計画期間を令和３年度から令和７年度とする「第５次福岡県男女共同参画計画」を策定し、様々な施策・事業を推進しています。

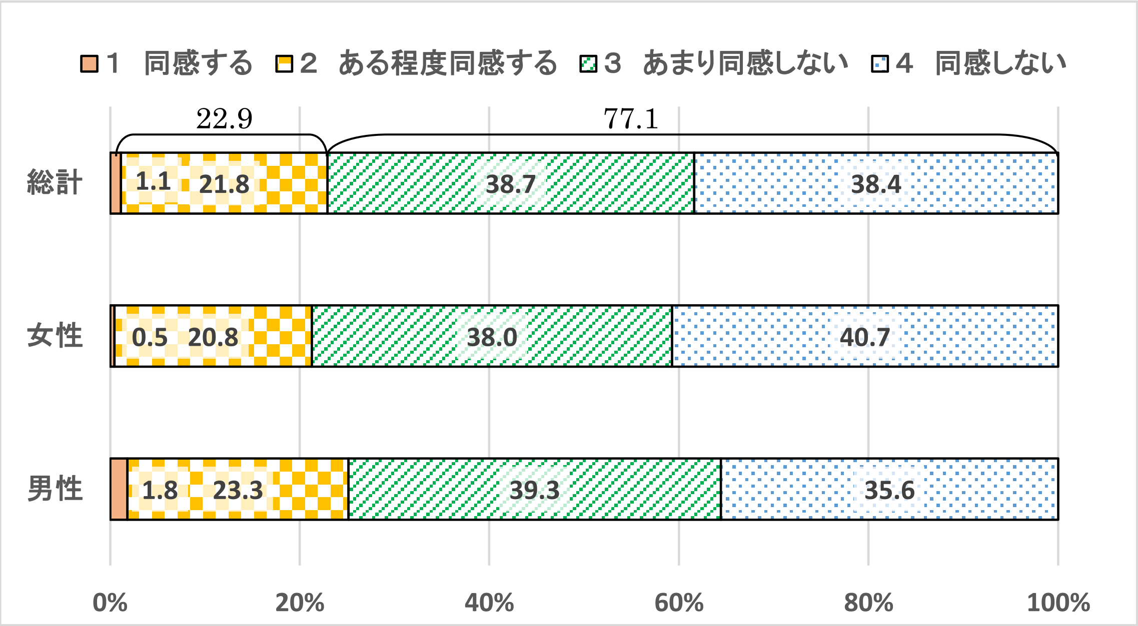
こうしたことから、今後のジェンダー平等・男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するとともに、ＤＶについての認知度、相談窓口の周知度等を把握するため、調査を実施するものです。

（人づくり・県民生活部男女共同参画推進課）

問１　あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

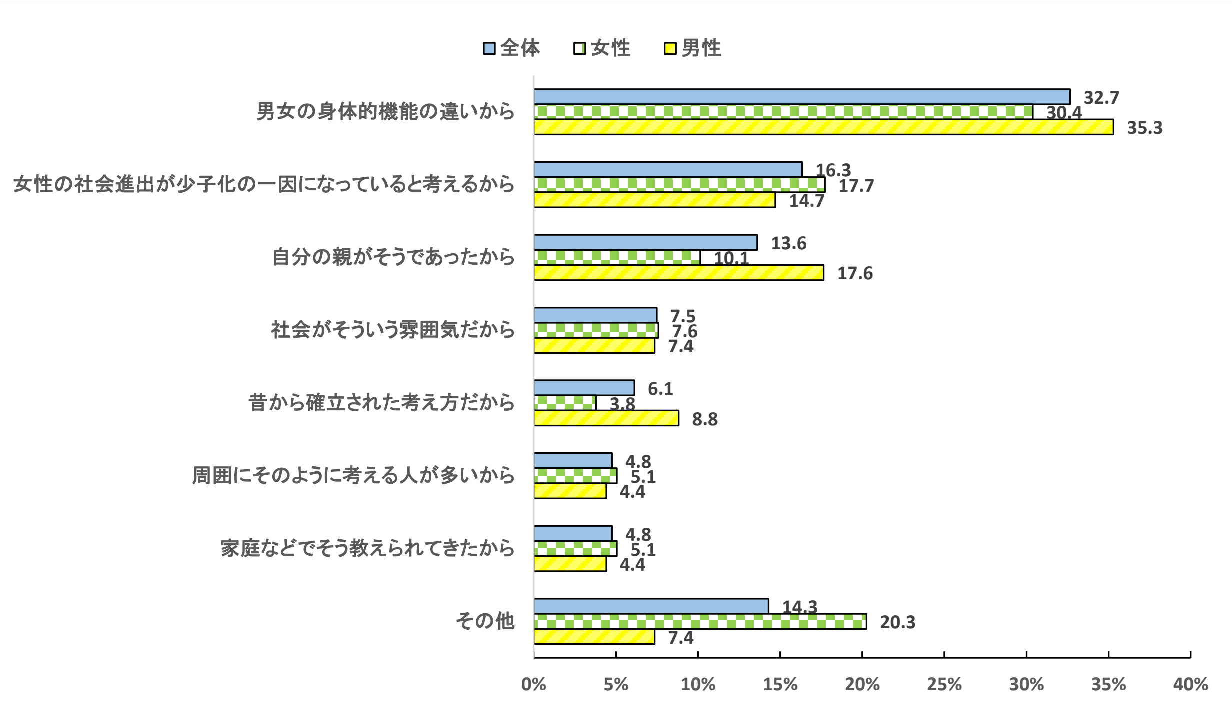
【回答内容】

全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が 22.9%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が 77.1%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。



問１－２　（問１で「１．同感する」、「２．ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。）
あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。（○は２つまで）

【回答】
全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人（32.7%）の割合が最も多く、次いで、「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」（16.3%）となっている。



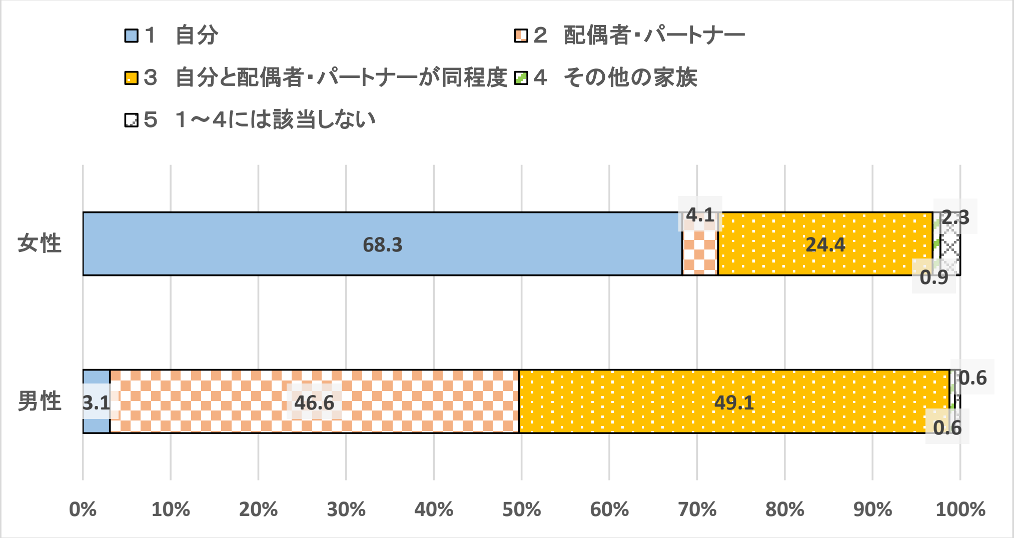
（その他）抜粋

- 男女間に収入の格差があることが現実だと思うから。
- 子どもがある程度の年齢になるまでは、母親がそばにいる事が必要だと思うから。
- 家事分担の負担割合が女性の方が多い家庭が多く、その状態での仕事と家庭の両立は精神的にも肉体的にも負担が大きいと思うから。
- 女性である自分自身が、仕事より家庭を重視しているから。

問２　あなたの家庭では、炊事・洗濯・掃除などの家事について、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

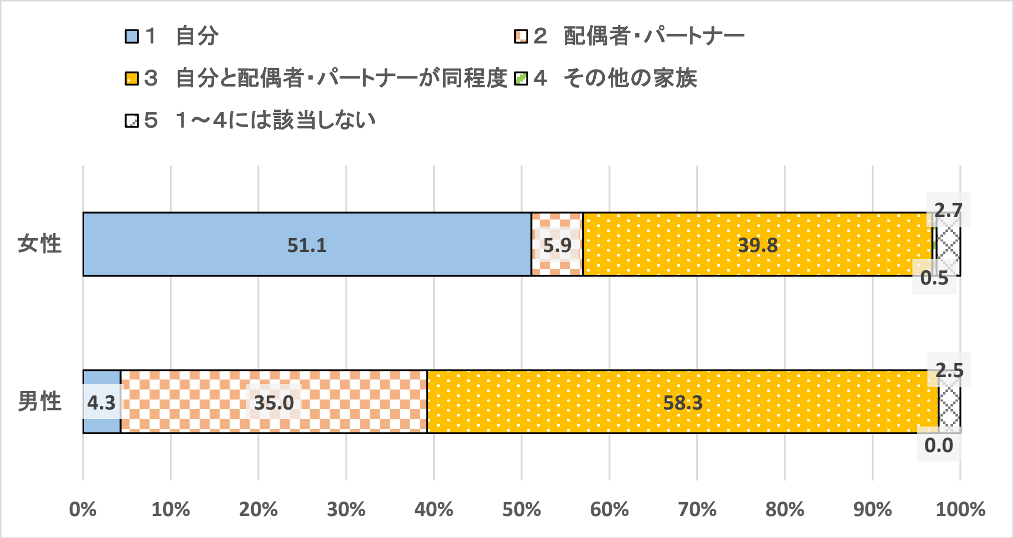
家事を行うのは、女性は「自分」（68.3%）が最も多く、次いで「自分と配偶者・パートナーが同程度」（24.4%）となっている。男性は「自分と配偶者・パートナーが同程度」（49.1%）が最も多く、次いで「配偶者・パートナー」（46.6%）となっている。



問３　あなたの家庭では、育児・子どものしつけについて、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーや子どもがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

育児を行うのは、女性は「自分」（51.1%）、男性は「自分と配偶者・パートナーが同程度」（58.3%）で最も多い。一方、女性における「自分と配偶者・パートナーが同程度」の回答は 39.8%と、男性の方が 18.5 ポイント多く、男女の違いがみられる。



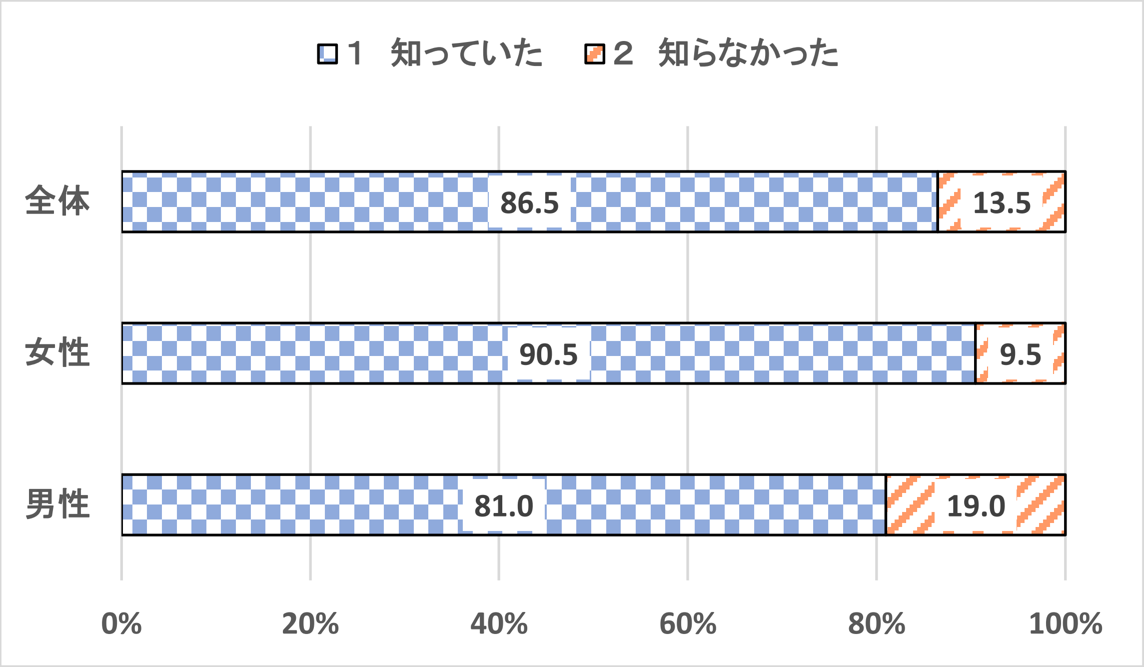
問４　あなたは、ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っていますか。

※ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）とは
配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。
【ＤＶの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける　など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する　など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない　など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない　など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む　など

※県内 12 ヶ所の配偶者暴力相談支援センターで相談を受け付けています。

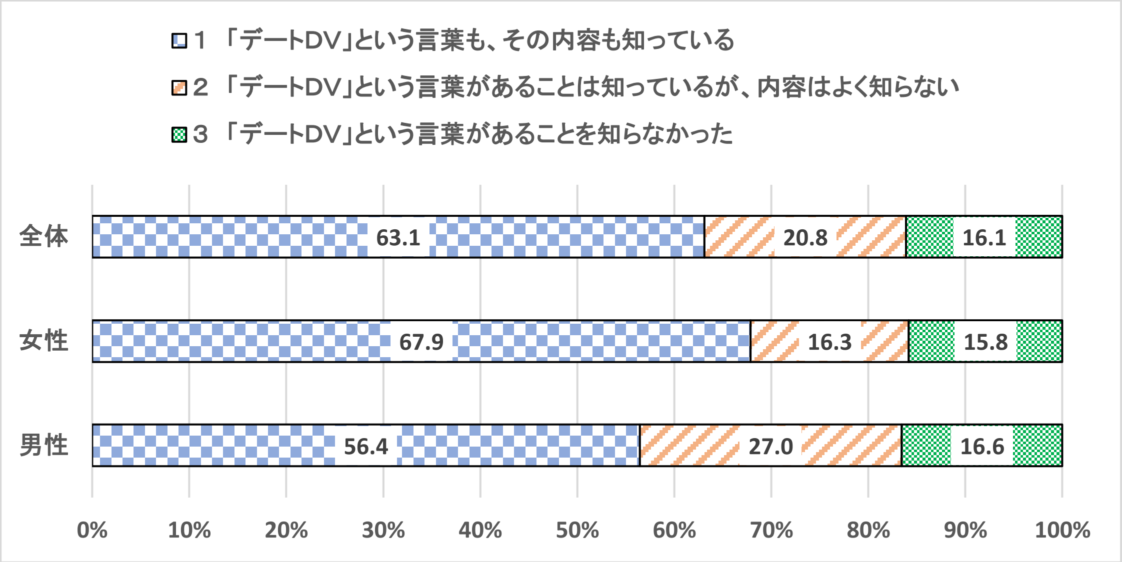
【回答内容】
ＤＶについて相談できる窓口があることを「知っていた」と回答した人は、女性は 90.5%、男性は 81.0%である。



問５　あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートＤＶ」）について、知っていますか。

【回答内容】

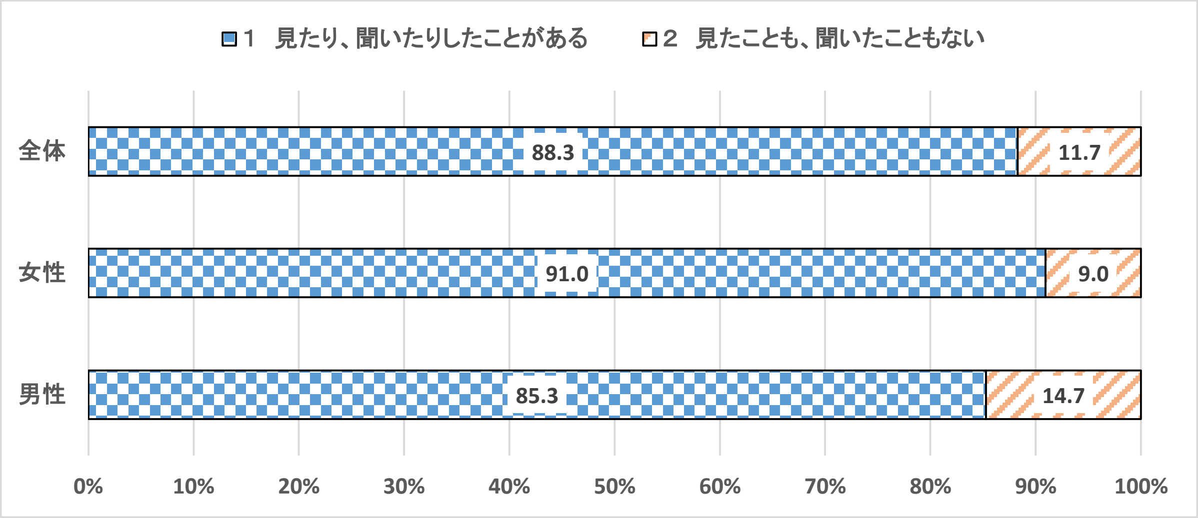
全体では、「言葉も、その内容も知っている」が 63.1%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が 20.8%、「言葉があることを知らなかった」が 16.1%となっている。



問６　あなたは、ＤＶ防止に関する広報を見たり、聞いたりしたことがありますか。

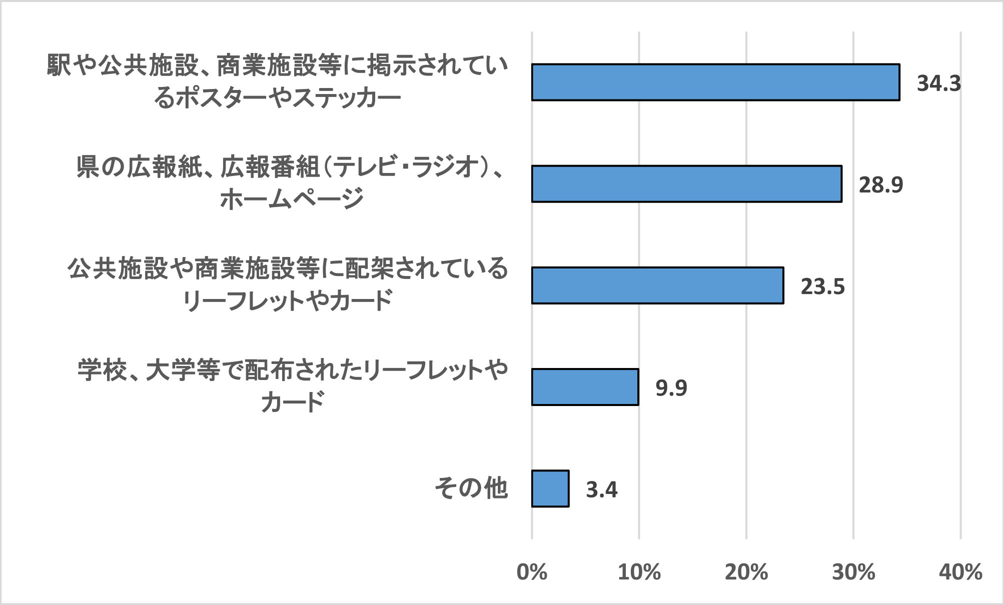
【回答内容】

全体では、「見たり、聞いたりしたことがある」は 88.3%、「見たことも聞いたこともない」が 11.7%となっている。



問６－２　（問６で「１」を選択された方にお尋ねします。）
あなたが見たり、聞いたりした広報の媒体はどのようなものでしたか。（〇は２つまで）

【回答内容】
「駅や公共施設、商業施設等に掲示されているポスターやステッカー」が最も多く（34.3%)、次いで「県の広報誌、広報番組（テレビ・ラジオ)、ホームページ」（28.9%)、「公共施設や商業施設等に配架されているリーフレットやカード」（23.5%）の順になっている。



（その他）抜粋
・市町村や市民団体の広報紙等
・新聞、テレビ、インターネット等

問７　男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（意見抜粋）

- 行政のみによる推進でなく、民間、行政も、地域社会を巻き込んで全体的に積極的に取り組み、ＤＶの撲滅、男女の差別の解消などを取り組む必要があると思う。
- 政治の世界では圧倒的に男性が多く女性が少ない。男女共同参画を進めていくためにも、代議員数を男女同数にするなどの措置が必要と考える。
- 幼少期から教育指導し、男女共同参画の意識向上を育む計画をたてるべきだ。
- 男性の育児休暇促進を県でより支援していただきたい。
- 男女共同参画のみの推進ではなく、テレワーク促進や都市部からの移住支援、子育て支援など複合的な施策をすすめていただきたい。
- 性差による様々なチャンスの不公平さは取り組むべき課題だが、現代の男女共同参画社会に関する議論は、男女の体力や身長など身体的な違いがあることを前提としないものばかりだと感じている。